

令和5年度 第3回三次市地域公共交通会議 議事要旨

1. 開催概要

日 時：令和5年12月22日（金）14時00分～15時40分

場 所：三次市役所本庁舎605・606会議室

出席者：

〔会長〕三次市 副市長 細美 健

〔委員〕

三次市地域振興部 矢野 美由紀	備北交通株式会社 稲垣課長代理 (代理)
十番交通有限会社 有木 好文	私鉄中国地方労働組合備北交通支部 長谷川 和宏
西日本旅客鉄道株式会社広島支社 山口 晃弘	君田町 今本 豊
甲奴町 畠 真樹子	粟屋町 中野 和彦
三次広域商工会 中宗 久之	三次市社会福祉協議会 梶原 真美
三次市建設部 加藤 伸司	広島県地域政策局 浜村 和音 (代理)
広島県警三次警察署 若宮 晋	米子工業高等専門学校 加藤 博和

2. 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) 「バス&レールどっちも割きっぷ」の販売実績について
 - (2) 路線バスの運行状況及び収支状況について
 - (3) 三次市地域公共交通計画の改定について（事前共有）
- 4 協議事項
 - 令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について
- 5 その他
- 6 閉会

3. 議 事

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

<事務局より、報告事項(1) 「「バス&レールどっちも割きっぷ」の販売実績について」を説明>

(加藤委員)

これまでJRや高速バスを使っていて、こちらに移行した方は新規ではない。この切符により新たな利用者を獲得し、リピーターにすることで目的に達する。利用者の中身がわかれば教えて欲しい。また、JR芸備線の利用者数向上に寄与したものになったのかも教えて欲しい。

今後、デジタルチケットへの移行などは考えておられるのか。属性等の情報も把握できると思う。

(事務局)

どっちも割きっぷの裏側にアンケートを記載しており、結果を令和4年度後半で集計している。これによると、これまで自動車を利用していた方が全体の4割を占め、JRが3割、バスが3割である。すなわち全体の7割が、これまで自家用車やバスを利用して、新たにJRを利用された方である。高速バスも同様であり、公共交通利用者が増えたことは明らかである。また、平均通過人員もJRより公表されているが、少なからず利用を押し上げていると考えている。

(稲垣委員代理)

どっちも割きっぷは紙ベースであり、来年3月31日まで継続ということで進めている。デジタルチケットに関しては、バス事業者ではモビリー、JRではウエスターというアプリがあり、検討の余地はあろう。3者でしっかり検討したい。

(山口委員)

乗車人員の影響について。一番好調だったのが災害前の2017年で、その後災害があり2018は落ちてしまった。以降は横ばいで推移している。昨年度の数字では、2017年比でみると三次駅は6割程度しか戻っていない。しっかり利用促進をして災害前と同じ水準に戻っていければ良い。

三次駅の普通乗車人員、すなわち定期乗車でない人達の利用者数は、2020年度から2023年にかけて増えている。どっちも割の影響かどうかはわからないが、確実に影響があると思う。今後はもっと使いやすくなるよう、アプリの技術開発を含めて連携して取り組みたい。

<事務局より、報告事項(2)「路線バスの運行状況及び収支状況について」を説明>

(加藤委員)

作木線の年間利用が0人であり、回送便とは思いますが、見直しはどのように考えられているのか。

また、児童・生徒・学生利用を担っている路線は、そういった事情を含めて考えていく必要がある。資料の表中に路線の特徴も含めて示されていれば良い。地域との関わりの中で交通を検討されることもあるため、支所単位の検討でも情報を示されたら良い。

(事務局)

37番の作木線について。回送の関係があり運行していたが、備北交通において改善に向けて現在車庫の確保等に動いている。川の駅三次線は、三江線代替としての位置付けがあり、そちらの計画が延長したこともあり現在大きな見直しが出来ないが、時期が来れば見直しは必要と考えている。35番の下津田線については日彰館高校の生徒が4名利用しており、大きな見直しが難しい。当面は現行の運行を保証することを考えている。

<事務局より、報告事項(3)「三次市地域公共交通会議の改定について(事前共有)」を説明>

4. 協議事項

<事務局より、協議事項「令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について」を説明>

(有木委員)

利用者から会社や乗務員個人個人に対して、色々と要望が出る。どのようにすれば、この交通会議でとり上げてもらえるのか。

(事務局)

定住対策課にご連絡いただいて、交通会議での協議が必要か、それとも軽微な変更で運輸支局に提出するだけで良いものかを検討する。交通会議に諮るべきであれば協議事項とするし、軽微な変更であっても報告事項ということで周知する。まずは、どのように変えたいかを連絡して欲しい。

(有木委員)

吉舎の自治振興会や支所でまとめて、報告してもらおうという流れになるか。

(事務局)

吉舎町には地域内交通検討部会がある。そちらで地域の課題、変更したいものを一旦整理してもらい、その協議が整ったら状態で定住対策課にご連絡いただきたい。それを持って協議が必要であれば、交通会議の協議事項あるいは報告事項としていく。

(有木委員)

市民バスについても同じということで良いか。

(事務局)

その通りである。交通会議が必要かを確認して、フィードバックする。

(稲垣委員代理)

フィーダーの評価において、赤名線では高速バスの乗り継ぎを考慮したダイヤ改正、下高野線は利便向上のため検討した、と書いている。

赤名線は、高速バスが4月から三次駅だけの立ち寄りになった結果、高速バスが2分程早くなった。すると赤名線ご利用の方からお手紙をいただいた。2分早まったことで、特に土日祝は現行のダイヤでは広島方面への接続が2分では少しでも遅れたら乗れない、という内容あった。これを受け、7月18日にダイヤ改正を行い、日中便の乗り継ぎをご安心いただけるものとした。

下高野線は、毎年こどもバスのフリー乗車券を販売している。そのアンケートの中に、下高野線利用に関して、おそらく三次高校に通われない方より、今のダイヤだと三次駅から歩くとホームルームに遅刻する、といったご意見を2件いただいた。そのため、下高野線で、平日に三次高校に寄れるダイヤ変更ができないか検討している。

事業者に直接ご意見があれば見直しできるし、検討中のものもある。引き続き利用者の利便性向上に繋がるよう努力したい。

(会長)

利用者、地域のご要望は、内容に応じて必要なところで議論・協議することになるが、いずれにせよそういった情報を定住対策課や支所に情報提供いただくところからスタートする。忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただきたい。

(加藤委員)

作木線、川の駅三次線でアンケート調査を実施されたとのことであるが、どういった課題や改善点が出たのか。またさくぎニコニコ便では、ITシステムを用いた運行管理システムや予約アプリが使われているが、これで利便性が高まる方向になっているのかを教えて欲しい。

(事務局)

乗客を対象としたアンケートとして、作木線については昨年度の10月28日金曜日に全ダイヤで乗降調査を行った。利用者は1日で59人、うち29人は60歳代以上で高齢の利用者が多いことがわかった。乗車目的は59人中20人が通院で最多であった。具体的な検討案は無く仮ではあるが、この路線は通学よりも通院利用を最優先に考えるといった材料になったといえる。川の駅三次線も同日に調査を行ったが、27人の利用があり、うち14人が学生であった。通学利用がメインの路線であるので、例えばダイヤ改正の場合は通学利用を最優先に考える、といった判断材料になると考えている。

予約アプリの活用について、現在はほぼ利用が無く、高齢の利用者が多いということもあり電話予約が100%である。今後の取り扱いはマツダとも協力して検討が必要と考えている。

(加藤委員)

別添2に、実施した利用促進策の記載がある。先程、どちらも割きっぷでオプション券の販売実績が

170枚とのことだったが、中にはくるるんを利用された方もおられると思う。観光利用でも取り込んだということを利用促進策として追記しても良いのではないか。

路線バスの運行状況・収支状況の17番に三次循環線があり、輸送人員が544人、土日祝で1日10人くらいの利用がある。プラザもリニューアルオープンしたので、積極的にタイアップして利用促進を図っていただきたい。また、本日配布されたチラシを見ると協力団体に三次地区、十日市、八次の連合会自治会とある。改めて連携を図り、自治連で試乗会をしたり、おでかけツアーをやってみたり等、PRをしていただけたらと思う。

また、路線名を三次市街地循環線とされているが、土日祝は酒屋にも行くので何か違うネーミングにされても良いかと思う。

川の駅三次線やさくぎニコニコ便は非常に利用者が少ない。例えば、川の駅で野菜市等をして、沿線の人が停留所に野菜を持っていけば集荷して川の駅に置いてくれるなどの貨客混載ができないか。備北交通が庄原でパンを運ばれており、ノウハウをお持ちである。

(事務局)

実施した促進策については、オプション券の文言を追加させていただくことを、合わせてご承認いただければと思う。

市街地循環便の名前については、実態が合っているか備北交通と検討したい。

川の駅三次線の貨客混載の案については、実施されている備北交通にノウハウを教えてくださいながら君田交通と検討したい。

(山口委員)

当社のアプリでは「マイ駅」登録が可能で、三次駅も登録でき、登録すると三次駅に接続する交通を検索することができる。例えば、広島駅から夢ランドやもののけミュージアムに行くなども一発でJRと備北交通・フィーダー交通が検索できる。三次駅は、既に検索できる機能があるため、これを市民に知っていただきたい。経路検索から直接、新幹線の予約もできる。市と連携して、こうした使い方も含めアピールする場を持てれば、フィーダー交通の利用促進にも繋がるものと考えます。

(事務局)

最近はスマホで検索しながら移動する方が多い。機会があれば事例紹介できればと思う。

(加藤委員)

運行系統図別紙のくるるんで、運行回数が平日4.0とあるが、ダイヤを見ると西酒屋の系統は平日の運行が無いため0.0ではないか。それぞれの縦計が1日8回になるかと思う。

また、赤名線の地域間幹線系統の箇所、備北交通の三城線の平日回数が25.5回であるが、同じく下高野線では25回になっている。作木線は25回、川の駅は25.5回であり、統一が必要である。

(事務局)

ご指摘の通りである。正しい数字を確認して訂正する。

(会長)

協議事項についてはオプション券の文言を追記ということで、原案を少し変更させていただく。その他についてもご承認ということで良いか。

(一同)

異議なし

(会長)

それでは追記、修正をして中国運輸局に提出する。

5. その他

(加藤委員)

三次甲奴線が廃止後、吉舎中のところで乗換になっているが、現在どのような状況か教えて欲しい。先般、三次高校からの要望があったようだが、その利用促進策の内容や、関係者を巻き込んだ取り組みはどういった状況か教えて欲しい。

また福塩線についても、芸備線と同じようなどっちも割を実施することは難しいか。

(事務局)

甲奴三次線が廃線となり、吉舎中学校で甲山三次線と接続するため、甲奴町内からデマンド型市民バスの運行を甲奴タクシーに委託している。利用は概ね 16、17 人だが 10 人に届かない月もある。運行には予約に応じて自宅に車が来て吉舎へ向かう運賃 300 円のサービス、及び定路線の乗り場まで自力で来て乗車する運賃 100 円のサービスがあるが、中身を見ると今のところ 100 円の定路線の利用のみで、デマンド利用とはなっていない。利用方法の説明など、啓発に向けた取組が必要である。

三次高校による提案について、昨日三次高校有志で結成された「芸備線を盛り上げる会」の 15 人が市長にプレゼンを行った。中身も非常に良く考えられたものであり、自分達ができる取組を一緒にやっという提案であった。可能なもの、調整が必要なもの等いろいろあったが、芸備線対策協議会で、提案を活かせる仕組みはできないか検討している。

福塩線のどっちも割に関して、福塩線対策協議会では具体的な提案が出ていない。バスと J R が並行して走る区間として上下・府中間が対象になると思われるが、まだ具体化はしていない。

(山口委員)

福塩線の府中・上下間は、府中市の交通会議の中で議論させてもらうことになるだろう。鉄道とバス等交通機関が連携することは非常に大切である。どっちも割を好事例として、色々なエリアで展開できれば良いと考え、各行政とお話している。ただ、三次市のように条件が合う所が中々無く苦勞している。

(加藤委員)

かつて上下と府中を 500 円のワンコインで結ぶといった実証実験もされていた。

甲奴三次線は運転手不足が引き金であった。三次甲山線も、収支率は 29.8%、28.2%ではあるが、日
彰館高校があり、また沿線にも住民もおられるので、どちらも割に限らず、例えば商業機関等と連携を
図り、市南部も活性化にもつながれば良いと考える。福山方面にも何か取組を考えていただきたい。

7. 閉 会

以 上